

管理者、児童発達管理責任者、元学校教諭、保育士でそれぞれの経験や知識・技術を生かし特別な支援を必要とする児童生徒が生きる力となる基本的な生活活動や社会性、コミュニケーション等の力をつけ地域の中で活動できることをめざしている。子どもの特性や保護者のニーズをより具体的にとらえ小学校・中学校高等学校と手厚く連携し放課後の短い時間に一人一人にきめ細かな支援と将来にわたる力を育てるため評価していきたい。

環境体制整備の点では支援に必要な個別の部屋や集団活動のできるプレイルーム体を使った活動の支援ができるよう移動に安全な公園が近くにあり活動を広げている。「学習スペース等少し狭さを感じているようだ」との意見が1名あった。支援に関わる者の有効的なスペースの使い方に課題が見られる。使いやすいスペースへの改善や職員の更に有効的な配置と使い方を工夫していきたい。

業務改善については今後自己評価を定期的に行うためのミーティングを毎日行っている。

適切な支援の提供については概ね発達年齢や学年での学習支援の効果を高めるため生活能力を向上させ、学習習慣を定着させ、社会とのコミュニケーションを十分にとれるよう総合的なプログラムを作成し個々の子どもの実態に合わせ、教材や教具を使い、集団療育、個人療育等、専門的知識と技術を持った指導員が適切な支援指導を心がけている。月に3回地域から外部講師として、バルーンアート、手品教室、パン作り教室等を行いコミュニケーションを大切に行っている。一方でアセスメントについては管理者、児童発達管理責任者、元学校教諭・保育士がまだまだ連携と情報共有できていない点がありケース研究を増やしていきたい。

関係機関や保護者との連携については子どもの生活に通じている児童指導員が多数いるので報告相談連絡が比較的スムーズであり適切な保護者対応ができているが更に情報の共有を図り家庭連携を強化したい。

保護者への説明責任等については他の事業所では見られない強みとして本事業所で支援、指導に当たる小学校教員のOB、保育士、地元大学の臨床系の大学院生や現役の福祉、教育の学部を専攻する学生がこれまでの経験や知識を生かし、個々の子どもの実態や状況を適切にとらえ、見たてを行い学校・幼稚園や関係機関との連携が速やかに行え保護者への相談に対して適切な対応を行うことができた。

非常時等の対応については、対応マニュアルを作成しているがスタッフや保護者に周知が徹底しているとは言い難いのでスタッフの危機意識を高め研修や訓練を増やしていく。

より質の高い支援を行うにはスタッフの充実と研修である。スタッフが力をつけ教材を発達年齢に合わせ作成し、子ども達との有効な時間を作るように努めたい。また、安心して子ども達が指導員との人間関係を作り事業所での時間を過ごせるように一人に子どもに指導員が一人つくよう配置を充実に努めたい。このことは、保護者の方より「集中して活動ができている」「事業所での時間を子どもが楽しみにしている」「大変満足している」等の評価の声をいただいている。また、発達年齢にあった活動を計画的に行っていきたい。